

## 巻頭言

近年、文部科学省から大学向けに多くの改革を促すメッセージが届きます。主として意思決定の迅速化、的確な意思決定のための組織体制の見直し、社会に開かれた大学への転向、教員の質向上などに結びつく改革であり、基本的にはその通りだと思われます。しかし、公立大学として、小規模校としてどのように咀嚼し適応させるか、優先順位をどこにおくかについては頭を悩ませるところです。また、競争的な外部資金も矢継ぎ早に公募され、いずれも何らかの大学改革を応募要件にしています。

本学は、開学から15年近く経過する大学として、社会の変化に応じた見直しが必要な時期を迎えていることと相まって、従来どおりの教育研究を静かに進めることが叶いにくい状況が生じています。現代の学生に適した教授方法を取り入れること、多様な学生の個性を見極めながら場合によっては個を尊重した支援も加味すること、研究においては臨床現場や地域社会への応用を意図した研究の推進などが重視されています。このように、多忙な中でも何とか成果を出してきた従来型・教員マイペース型の教育研究に固執できない状況が生まれてしまいました。より手のかかる教育方法や研究内容を、開学以来の本学の理念を変えることなく、容易さをもって遂行できるような教員の質向上が求められている時代を迎えているとも言えます。

そのような中、本学の年報は、この1年の大学全体の様相、教職員一人ひとりの学内外での役割・活躍や、個人で努力したことの成果などが、世間におもねることなく正直にほぼ網羅的に掲載されています。どうぞご覧いただき、ありのままの本学の姿をつかんでいただきたいと思います。

8章から15章には、本学の対外的な活動が示されており、この部分は年々増加傾向にありましたが、平成25年度は数的にも質的にも近年になく豊かになりました。これらの多くのプロジェクトが学生教育と有機的な関係を持っており、この活動の中で学生たちが実社会や国際的な触れ合いから学び、その結果コミュニケーション能力や複眼的な視点で対象を捉える力を高めています。教員たちの費やすエネルギーも相当な量になっておりますが、学生の成長を糧として頑張っております。

これらの一部はカリキュラムの中にもしっかりと位置づけるべく、教務委員会やその部会等でも時間をかけて検討いたしました。また、大学院教育の改革にも力を注いだ1年でした。日本看護系大学協議会の定めに従い、CNSコースに必要な認定単位数を12単位増やしました。学部・大学院ともに次年度シラバスに新たなカリキュラムが表示されることになりました。

このような本学の事情を汲み取りながらこの年報をお手に取っていただくといろいろと感じていただけるのではないかと思います。詳しいことは個々の事業報告にまとめております。読者の皆様、是非 <http://www.ishikawa-nu.ac.jp/>にもアクセスしてみてください。忌憚のないご意見をうかがえれば幸甚です。

石川県立看護大学 学長 石垣和子



第 14 回入学式（平成 25 年 4 月 5 日）



オープンキャンパス（平成 25 年 7 月 20 日）





第8回夏期アメリカ看護研修(平成25年8月26日～9月8日)





JICA 日系研修（平成 25 年 7 月 16 日～8 月 9 日）



JICA 中央アジア・コーカサス混成青年研修(平成 25 年 11 月 28 日～12 月 10 日)



第 11 回卒業式（平成 26 年 3 月 15 日）